

## 新潟市食育推進計画 数値指標一覧

## 第4次新潟市食育推進計画 数値指標

No.	指標	策定時 (令和3年度)	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和8年度)	所管課	出典	
<b>【1】食を楽しむ</b>							
1	食べることを「楽しい」と思う市民の割合	73.3%	—	80.0%	食と花の推進課	(1)	
2	1日に1回以上、誰か(家族・友人・知人等)と一緒に 食事をしている市民の割合	80.9%	—	90.0%	食と花の推進課	(1)	
3	農林漁業体験を経験した市民(世帯)の割合	47.1%	—	50.0%	食と花の推進課	(1)	
4	アグリ・スタディ・プログラムを体験し、本市の農業への誇りが醸成された小・中学生の割合	94.0%	95.1%	100.0%	食と花の推進課	(2)	
<b>【2】食を大切にする</b>							
5	身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合	74.8%	—	80.0%	食と花の推進課	(1)	
6	「食品ロス」を減らすために取り組んでいる市民の割合	93.1%	—	95.0%	循環社会推進課	(1)	
7	学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)	県内産	58.4%	56.8% ※R4.6月	60.2%	保健給食課 食と花の推進課	(3)
		(参考)市内産	24.7%	25.3% ※R4.6月	—		
8	小学校における「食に関する指導」実施校の割合	94.3%	—	100.0%		(4)	
9	食文化(郷土料理や行事食)を受け継いでいる市民の割合	18歳以上	53.7%	—	70.0%	食と花の推進課	(1)
		18～39歳	41.5%	—	60.0%		
<b>【3】食で健康になる</b>							
10	「主食」、「主菜」、「副菜」の言葉や意味を知っている市民の割合	18歳以上	80.0%	—	90.0%	健康増進課 食と花の推進課	(1)
		18～39歳	79.9%	—	90.0%		
11	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	18歳以上	63.2%	—	80.0%	健康増進課 食と花の推進課	(1)
		18～39歳	54.3%	—	70.0%		
12	朝食を欠食する市民の割合 ※18～39歳:1週間で「週に1～2回食べる」「ほとんど食べていない」と回答した割合 ※小・中学生:1週間で「ほとんど食べていない」と回答した割合 ※小学生・中学生は全学年を対象とする	18～39歳	23.2%	—	15.0%以下	保健給食課	(1)
		小・中学生	1.9%	2.3%	0.0%		

## 【出典】

- 令和3年度「食育」に関する市民アンケート調査(食と花の推進課)
- 令和4年度 児童・生徒の農業についての意識調査(食と花の推進課)
- 令和4年度 学校給食における地場産農林水産物の使用状況調査(6月分)(保健給食課)
- 学校における「食に関する指導」の取組状況調査(食と花の推進課)
- 令和4年度 新潟市生活・学習意識調査(新潟市立総合教育センター)

## 食育に関する市民アンケート調査結果(抜粋)

### 1. 調査目的

「第3次新潟市食育推進計画」の評価資料とするとともに、「第4次新潟市食育推進計画」の策定および今後の食育推進施策検討の基礎資料とする。

### 2. 調査設計

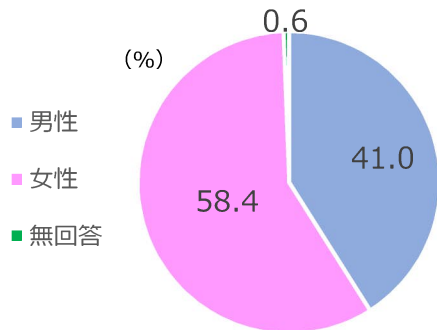
- (1)調査地域 新潟市
- (2)調査対象 満18歳以上の男女2,000人
- (3)抽出方法 無作為抽出法
- (4)調査方法 配布:郵送法 回収:郵送またはWEB方式
- (5)調査期間 令和3年12月23日(木)～令和4年1月7日(金)

### 3. 回収結果

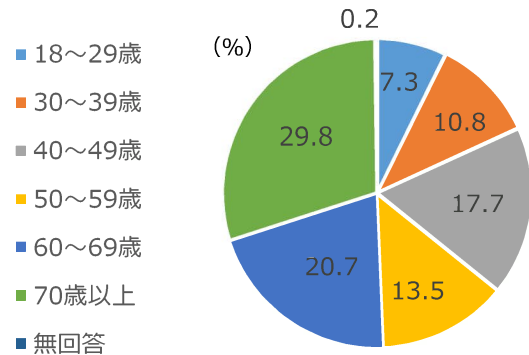
有効回収数(率) 904人(45.2%)

### 4. 回答者の構成

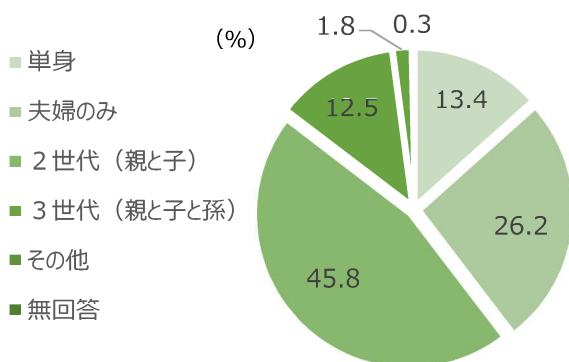
#### (1)性別



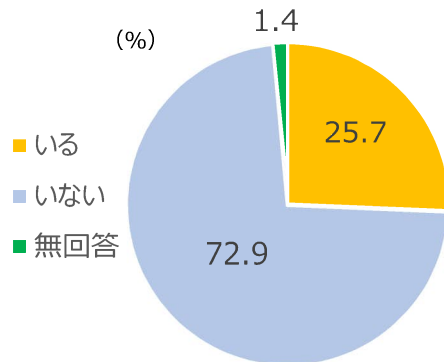
#### (2)年齢



#### (3)世帯の家族構成

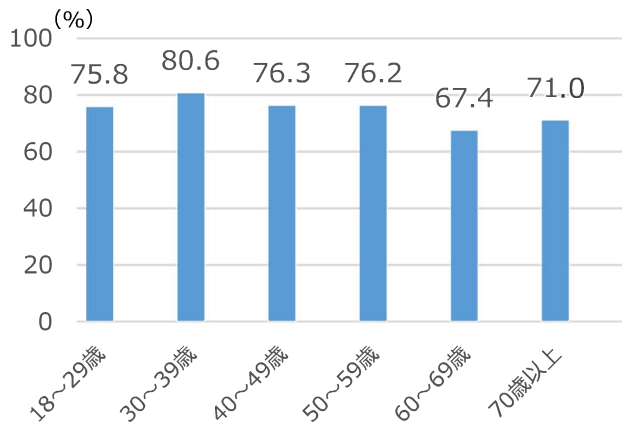


#### (4)18歳未満の同居家族の有無

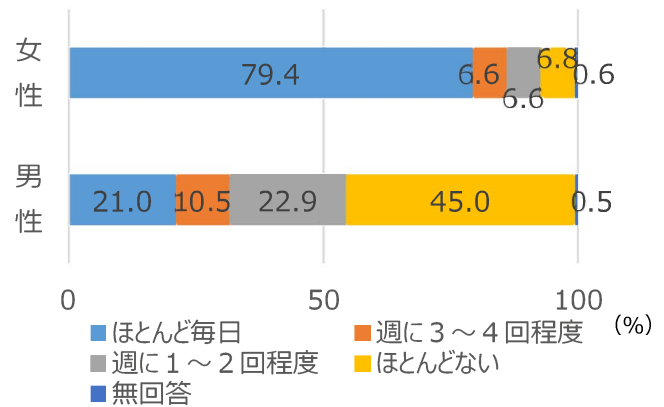


## 5. 結果概要

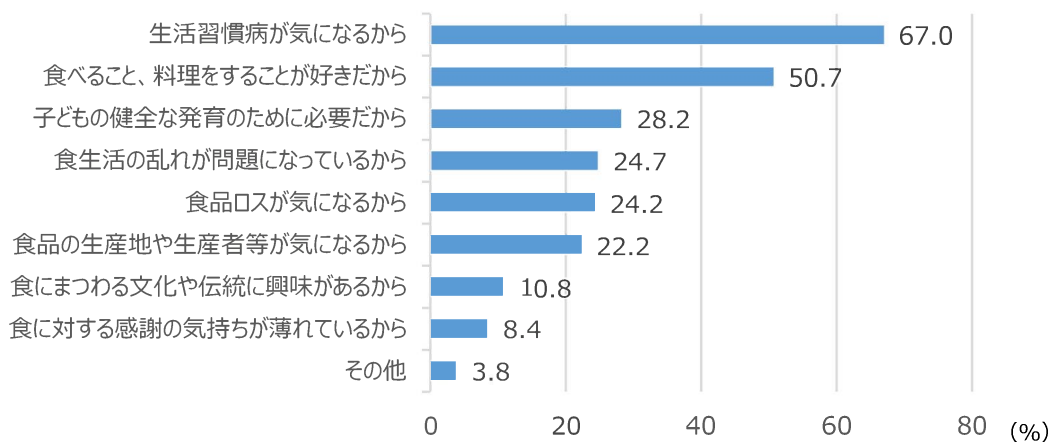
Q. 食べることは「楽しい」ですか。



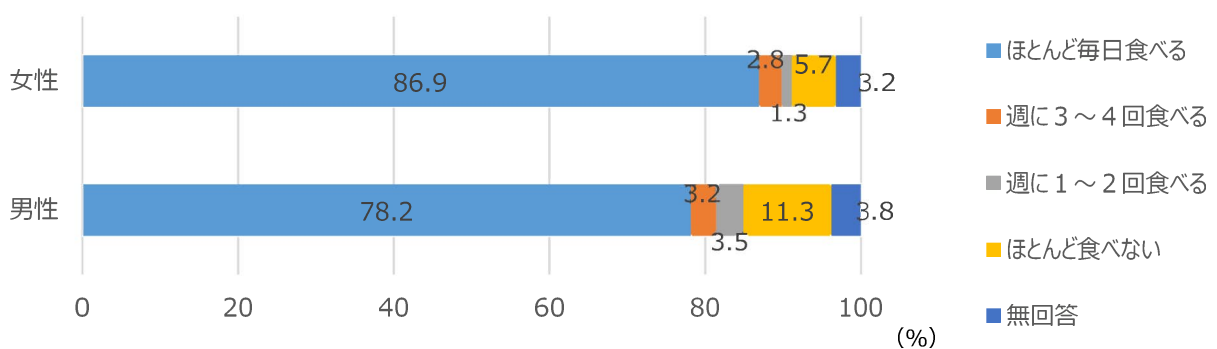
Q. 日頃、食事づくり(献立を考える、食材購入、調理など)に関わっていますか。

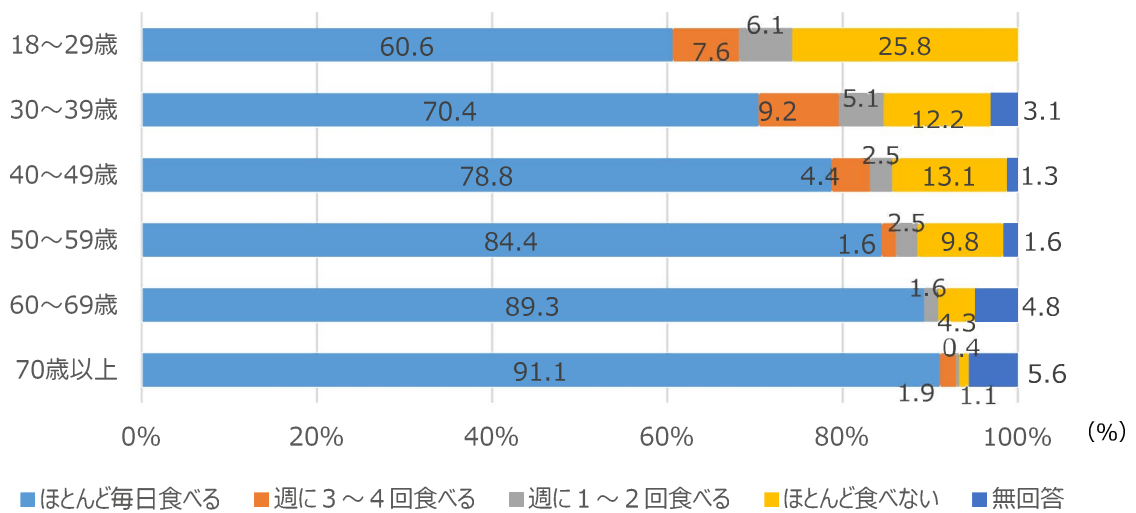


Q. あなたが「食(食事や食習慣)」に関心がある理由は何ですか。

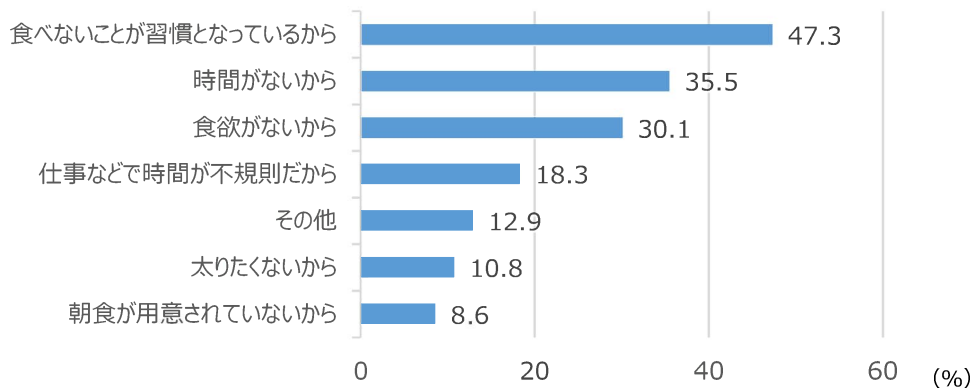


Q. あなたは日頃、朝食を食べていますか。

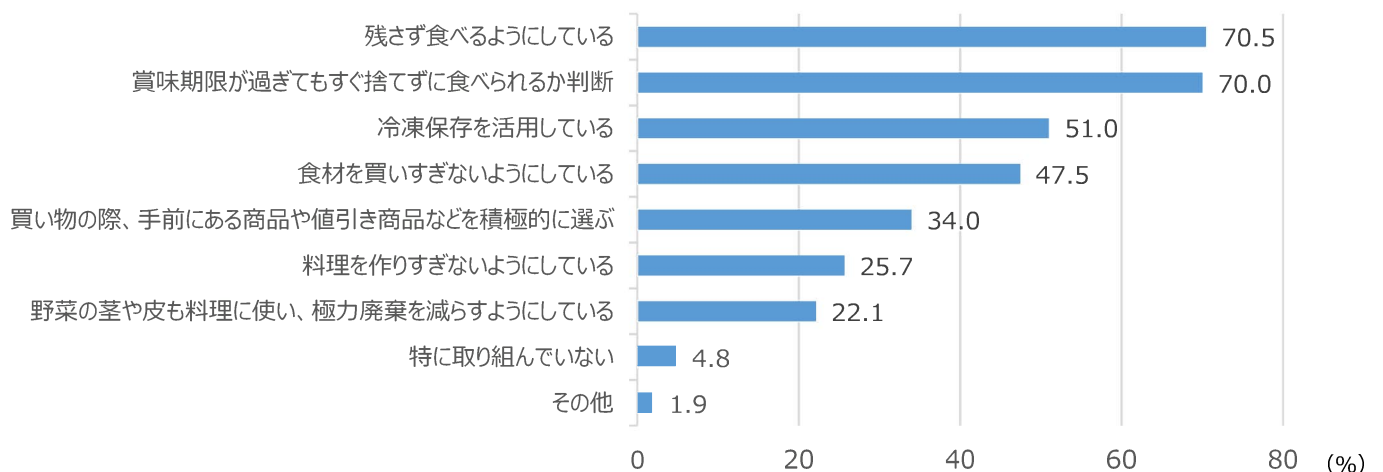




Q. あなたが朝食を食べない理由は何ですか。



Q. 食品ロスを減らし、食べ物を無駄にしないように、取り組んでいることはありますか。



【参考】第3次新潟市食育推進計画 数値指標一覧

No.	指標	対象	策定時	実績					出典	目標値	課題・今後の対策等	所管課		
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和3年度				
1 えらぶ														
1	「食(食事や食習慣)」に関心を持っている市民の割合	20歳以上	83.8%	83.1%	78.7%	-	-	89.5%	C	R3「食育」に関する市民アンケート調査	90.0%	第4次計画に基づき、「楽しむ」ことから関心につながるよう引き続き啓発を図る。	食と花の推進課	
2	生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や、減塩、野菜の摂取などに気をつけた食生活を実践している市民の割合	20歳以上	62.4%	63.2%	65.3%	-	-	87.1%	A		75.0%	広報等による普及啓発を行う。	健康増進課 食と花の推進課	
3	身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合	20歳以上	74.8%	73.5%	77.0%	-	-	74.8%	C		80.0%	環境に配慮した食育に向け、引き続き地産地消の普及啓発を図る。	食と花の推進課	
4	食べ物を無駄にしないよう行動している市民の割合	20歳以上	84.8%	83.7%	83.5%	-	-	93.8%	A		90.0%	引き続き、広報紙等を通じ市民への啓発を図る。	循環社会推進課 食と花の推進課	
5	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断することができる市民の割合	20歳以上	63.3%	65.2%	69.3%	75.7%	-	70.1%	B		80.0%	食の安全基本方針(第3次改定)において「食の安心安全確保の取り組みを知っている市民の割合」「安全な食生活を送るために自ら食品選択等の判断をしている市民の割合」が指標として設定されているため、関連計画として引き続き取り組んでいく予定である。	食の安全推進課	
		20歳代・30歳代	53.4%	58.9%	63.9%	65.7%	-	66.5%	A	65.0%				
2 つくる														
6	学校給食における地場産物を使用する割合(食材数ベース)	市内産	16.6%	16.0%	15.6%	15.4%	14.7%	14.9%	D	R3学校給食における地場産農林水産物の使用状況調査	16.0%	国の第4次食育推進基本計画に合わせ、今後評価指標を「食材数ベース」から「金額ベース」へ変更する。	保健給食課	
		<参考>県内産	31.3%	31.0%	30.3%	31.2%	29.3%	30.7%	-					
7	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思う市民の割合	20歳以上	82.0%	79.5%	77.9%	-	-	92.3%	A	R3「食育」に関する市民アンケート調査	85.0%	学校給食において、郷土料理や伝統的な料理を提供することを通して、児童生徒が食文化に興味をもてるようにしていく。SNS等を活用し、郷土料理や行事食の周知を継続して行う。	食と花の推進課 保健給食課	
8	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを受け継いでいる市民の割合	20歳以上	54.7%	53.5%	52.6%	-	-	53.7%	C		70.0%			
		<参考>受け継ぎ、伝えている	37.5%	34.5%	-	-	-	69.4%	-					
		20歳代・30歳代	48.7%	48.1%	45.9%	-	-	41.5%	D	60.0%				
9	新潟市食育マスター派遣事業の実施回数	実施回数	200回	217回	137回	-	-	-	E	R1年3月	200回	令和元年度より派遣制度から紹介制度へ変更。	食と花の推進課	
10	拠点施設等における食育の実践を促す事業の実施回数(主催料理教室・団体体験プログラム・味覚体験等)	実施回数	173回	191回	211回	230回	271回	295回	A	R4年3月	200回	コロナ禍において今後更に感染症対策強化していきたい。	食育・花育センター	
3 たべる														
11	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	20歳以上	67.1%	66.5%	68.8%	78.5%	79.1%	63.2%	C	R3「食育」に関する市民アンケート調査	80.0%	広報等による普及啓発を行う。	健康増進課 食と花の推進課	
		20歳代・30歳代	49.5%	52.4%	54.1%	65.6%	65.4%	54.3%	C		70.0%			
12	ゆっくりよく噛んで味わって食べる市民の割合	20歳以上	51.6%	54.8%	56.7%	-	-	63.2%	A		55.0%	広報等による普及啓発を行う。	健康増進課	
13	朝食を欠食する市民の割合 ※18～39歳:1週間で「週に1～2回食べる」「ほとんど食べていない」と回答した割合 ※小・中学生:1週間で「ほとんど食べていない」と回答した割合 ※小学生は5・6年生のみ	20歳代・30歳代	19.5%	21.2%	18.6%	25.0%	21.1%	23.2%	D		R3新潟市生活・学習意識調査	15.0%以下	家庭環境に影響される部分が多いため、深く踏み込んだ指導ができないことが課題である。各学校の実態に応じて、引き続き、児童生徒への食育指導を通して、保護者への啓発をしていく必要がある。	健康増進課 食と花の推進課
		小・中学生	1.5%	1.6%	1.7%	1.9%	2.0%	2.3%	D			0.0%		
		<参考>小学生	1.1%	1.2%	1.2%	1.3%	1.4%	1.6%	-					
		<参考>中学生	1.9%	1.9%	2.0%	2.4%	2.4%	2.8%	-					
14	「共食」が大切だと思う市民の割合	20歳以上	85.6%	83.5%	84.1%	-	-	92.9%	A	R3「食育」に関する市民アンケート調査	90.0%	「食育の日」の普及啓発とからめ、「共食」の周知を行う。	食と花の推進課	
15	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加	20歳以上	9.9回	9.4回	9.6回	-	-	10.4	C		11回	「食育の日」の普及啓発とからめ、「共食」の周知を行う。	食と花の推進課	
4 育てる														
16	農林漁業体験を経験した市民(世帯)の割合の増加	-	27.2%	28.9%	27.6%	-	-	47.1%	A	R3「食育」に関する市民アンケート調査	40.0%	農林漁業体験がさらに市民に浸透し、楽しみながら食への関心が高まるよう取り組む。	食と花の推進課	
17	農業体験学習を実施している小学校の割合	市立小学校	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A	R4年3月	100%	本市の農業への誇りが醸成されるよう、取組を継続する。	食と花の推進課 学校支援課	
18	食育の推進に関わるボランティアの数(新潟市食育マスター)	食育マスター登録数	101人・団体	112人・団体	56人・団体	56人・団体	56人・団体	55人・団体	D	R4年3月	100人・団体	制度のPRを行い、地域での活動が広がるような推進が必要である。	食と花の推進課	
		<参考>食生活改善推進委員	456人	476人	473人	459人	452人	412人	-	R3年4月時点	-	計画的な養成講座の実施	健康増進課	
再	19	新潟市食育マスター派遣事業の実施回数	実施回数	200回	217回	137回	-	-	-	E	R1年3月	200回		食と花の推進課
再	20	拠点施設等における食育の実践を促す事業の実施回数(主催料理教室・団体体験プログラム・味覚体験等)	実施回数	173回	191回	211回	230回	271回	295回	A	R4年3月	200回		食育・花育センター

※ 目標値は、①第2次計画の目標値を引継ぐ、②第3次基本計画の目標値、③策定時に根拠となる数値がない場合には意識:80%、実践:70%、④政策的指標は現状の実施回数を踏まえて設定。

※ A:目標達成 B:改善傾向 C:不変 D:策定時より低下 E:評価不能